

発表！

平成30年度 復興大臣顕彰

今回の事例集で掲載した30の企業・団体の中から、特に参考となる6事例を選び、復興大臣顕彰を授与しました。選考にご協力いただいた本誌監修委員のコメントとともに紹介します。

岩手県宮古市

おもえ 重茂漁業協同組合

➡事例記事: 26ページ



監修委員コメント

監修委員: 柳井 雅也氏

日本海側の漁協へ中古船の買い付けに向かうなど、組合員の並々ならぬ熱意を感じます。特に素晴らしいのは以下の3点。①「漁船シェアリング」によるイノベーションを起こしていること。②経理関係も戦略的に借金を行うなど経理のプロや責任者がいたこと。③日頃から民間の生活クラブ生協と連携を深めていたこと。これらがいち早い復興に役立ったと考えます。とても参考になる事例といえます。



Award

岩手県釜石市

ミネックス株式会社

→事例記事:78ページ



監修委員コメント

監修委員:弓削 徹氏

農業を1次産業とすれば、肥料製造は0.5次産業。そういう意味では、命をつなぐ仕事です。とはいえ、商品として選ばなければ出番はありません。市場性を見据え、付加価値の高い新商品を開発することにより、生産休止の不利を中央から突破した力強さを評価したいと思います。さらに、産業廃棄物としてお金を支払って処理していたウニの殻などを利活用。海浜地区に位置する環境をアドバンテージに転換する見事な戦略でした。



宮城県石巻市

ひ た か み
日高見の国

→事例記事:56ページ



監修委員コメント

監修委員:藤野 英人氏

事業のネットワーク化と協業は、産業復興における成功の大きなポイントです。日高見の国に参加する企業は、その重要性を良く理解しています。競争の厳しい国内市場ではなく、無限の可能性を秘めた輸出市場に目を向けたことも成功の要因でしょう。各企業の独立性を大切にしながら自社にない商品を補い合い地域ブランドとして確立した手法は見事です。東北ブランドを活用した水産加工業ならではの協業の好事例です。



Award

宮城県南三陸町

宮城県漁業協同組合 志津川支所 戸倉力キ部会

→事例記事:124ページ



監修委員コメント

監修委員:福島 路氏

東日本大震災前にはばらばらだった漁師たちが、被災を機に団結し、さまざまな工夫を重ね、その中で個人の利益から地域全体の利益を考えるように考え方の転換が行われた点が特に素晴らしいと思います。また力キの品質向上、後継者の増加という結果を着実に出されているのは素晴らしいです。水産業の衰退は深刻な問題となっておりますが、これまでのしがらみを乗り越えさまざまな試みを続けておられる戸倉力キ部会の取り組みは、今後の水産業全体にとって大いに参考になると思います。



福島県いわき市

農事組合法人いわき菌床椎茸組合

→事例記事:140ページ



監修委員コメント

監修委員:福島 路氏

東日本大震災後、福島の農家は、国内ですら福島県の農産品というだけで購入してもらえず、輸出もできず、長い間、風評被害に苦しめられています。そのような福島からいわき菌床椎茸組合のような会社が出てきたことは喜ばしい限りで、福島農業にとって復活の狼煙となることでしょう。「福島を元気にする会」が結成され、皆で力を合わせて造り上げた「いわきゴールド椎茸焼酎」は福島復興のシンボルになるのではないのでしょうか。苦しい中においても若者を育て、彼らの力を発揮する場をつくってきた渡部代表理事の経営力は学ぶべき点が多いと思います。



Award

福島県須賀川市

林精器製造株式会社

→事例記事:88ページ



監修委員コメント

監修委員:弓削 徹氏

製造業は技術を軸に展開していく企業がほとんどですが、それだけでなく非常に戦略的に事業の枠組みを考えているように感じます。精密金属加工などのコア3事業に加え、燃料電池車や医療の分野にも拡大へ。進出分野のポートフォリオを、しっかりと描けているところが頼もしいといえます。また、産官学の連携を上手に活用している点も見逃せません。こうした経営ができていることは、どのような環境の変化にも対応していける体質であることの証明でしょう。

